2019年6月27日

農林中央金庫
中 国 営 業 部

西日本豪雨災害にかかる初のファンド案件について

農林中央金庫は、農業法人向け投資育成ファンドを運営するアグリビジネス投資育成株式会社（以下「アグリ社」という。）と連携し、キャベツ生産等を営む農業法人である株式会社vegeta(庄原市、代表取締役：谷口　浩一）に対して、全国初となる平成30年西日本豪雨被災法人を対象とした復興ファンドからの出資(出資額：25.2 百万円)を実施いたしましたので、お知らせいたします。

１　案件概要

(1) 平成30年西日本豪雨を対象とした復興ファンドの概要

アグリ社は日本政策金融公庫とＪＡグループが共同で設立した法人で、農業法人等への投資育成事業を実施しております。

平成30年西日本豪雨で被災した農業法人等における甚大な被害に鑑み、原則として災害救助法の適用地域に保有・使用する施設が被災した法人を対象に財務を出資面から支援することを目的として、2018年10月に復興ファンドの対象先として西日本豪雨での被災法人を追加しました。

アグリ社はこれまでに平成30年西日本豪雨被災法人に対しての出資実績がなく、本件が全国初の案件となります。

(2)今回の出資内容

出資日：2019年6月26日(水)
出資額：25.2 百万円
資金使途：豪雨被害からの復興およびキャベツ生産の規模拡大にかかる増加運転資金

２　対象会社の概要

名称	株式会社vegeta
代表者	代表取締役　　谷口浩一
所在地	広島県庄原市帝釈宇山797
事業内容	・　当社は庄原市他でキャベツ生産等を営む農業法人。1994年の創業以来、多品目の野菜生産を手掛ける。 ・　広島県は、郷土料理のお好み焼き等に使用されるキャベツの県産供

	給率が 7%(2013 年時点で 2,777t)と低いことを課題として認識。2021 年に県産供給率 56%(22,400t)の達成を目指す「16 億円産地計画」を打ち出し、当社はその中核的な担い手として 2014 年よりキャベツ生産に本格参入。 ・ 2018 年度における当社のキャベツ作付面積は 68ha、総生産量は 1,600ｔの実績であるが、県の農地中間管理事業等を活用しながら、県内各所で造成工事を進めることで、2019 年度には作付面積 100ha、総生産量 4,500t の達成を見込んでいる。 ・ キャベツの増産にあたっては、高度の異なる圃場を県内各所に確保し、収穫時期をずらすことで、周年での収穫が可能な体制を確立。また、機械化の促進や圃場管理へのドローンの活用など、農業の先進化に資する取組みを積極的に行っている。

農林中央金庫では、被災された農林水産業者等の皆様の資金繰りの円滑化に資するため、ＪＡバンク・ＪＦマリンバンクとともに新規のお借入や既往借入金のご返済に関する相談窓口を開設し、低利の災害対策資金のご対応、復興ファンドの他にも各種の金融支援を実施しております。

引き続き広島県域において農林水産業の復興、被災された皆様の事業の継続、生活の再建に向けた支援を含め、総合的な金融サービスの提供等の支援を実施してまいります。

以　上

＜本件に関するお問合せ先＞
農林中央金庫　中国営業部　（野尻、高橋）　Tel：086－222－0724